

## 横田基地へのC V 2 2 オスプレイの配備撤回を政府等に求める意見書

米国政府は、11日、空軍の垂直離着陸輸送機C V 22オスプレイを、2017年以降、横田基地に新たに配備する方針を、日本政府に通報した。オスプレイの配備は、沖縄県以外では、初めてである。

オスプレイは、開発段階から現在に至るまで、墜落事故を初めとした事故が相次いでいる。垂直方向と水平方向へのプロペラを切りかえる飛行を特徴としているために転換モード時に機体が不安定になりやすい問題、飛行中にエンジンが停止した場合に安全に着陸できる「自動回転」機能がない問題など、重大な構造上の問題も指摘されている。5月18日には、米ハワイ州で米海兵隊のM V 22オスプレイが墜落した。乗組員の死亡はこれで累計40人に達したとのことである。

加えて、C V 22オスプレイは、特殊作戦要員の輸送が主な任務であり、2012年の防衛省資料によっても、沖縄配備の海兵隊仕様のM V 22オスプレイと比較し、3倍もの事故率（10万飛行時間当たりの事故件数）を記録している。2010年にはアフガニスタンでの作戦中に4人が死亡する墜落事故、2012年には、米南部フロリダ州での基地演習中に墜落事故を起こしている。

横田基地周辺には、小中学校や保育園、老人ホーム、病院、住宅などが密集しており、首都に存在するという世界で例を見ない外国基地である。

年間1万回を超える離着陸などにより、騒音被害はもとより、航空機墜落や部品落下のような人命にかかわる事故の危険など、都民の命と生活が深刻に脅かされている。その上に、危険なC V 22オスプレイの配備は到底認められるものではない。

特殊訓練に使われるC V 22オスプレイの配備は、降下訓練や低空飛行、夜間訓練など危険度の高い訓練・飛行を首都圏を初め、全国に広げることにもなる。

横田基地では、近年、頻繁に、在沖縄海兵隊や陸・空軍特殊部隊によるパラシュート降下訓練が行われ、沖縄・嘉手納基地所属のM C 130特殊作戦機

も飛来するなどしている。これにC V 22オスプレイが加われば、横田基地がいよいよ、特殊作戦訓練の拠点基地として強化が進む危険があるということも決して見過ごすことはできない。

一昨年には、オスプレイを使った日米共同訓練が滋賀県で、集団的自衛権の行使のためとも言える訓練が行われている。

既に一昨年7月に、横田基地周辺市町基地対策連絡会の構成市町長である5市1町の首長は、C V 22オスプレイの横田基地配備検討の撤回を米国政府に求めるよう、国に要請している。また、オスプレイ配備について5月12日、15日に外務、防衛両省の担当者から受けた説明では不十分だとして、事故原因と合わせ、安全の確保と説明責任を果たすよう国に要請する方針としている。

昨年、東京都市長会では「東京都予算にかかわる重点要望事項」において、オスプレイについては安全性に大きな懸念があることから、「周辺自治体や住民に対する十分な説明責任を果たすとともに、横田基地への飛来や配備を行うことのないよう」、東京都に対して求めているところである。

よって調布市議会は、市民の生命と暮らしを守る立場から、日本政府に対して、C V 22オスプレイの横田基地への配備撤回を、米国政府に対して求めることを、強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年6月 日

調布市議会議長 鮎川有祐

提出先

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣